

りそな 経済フラッシュ (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

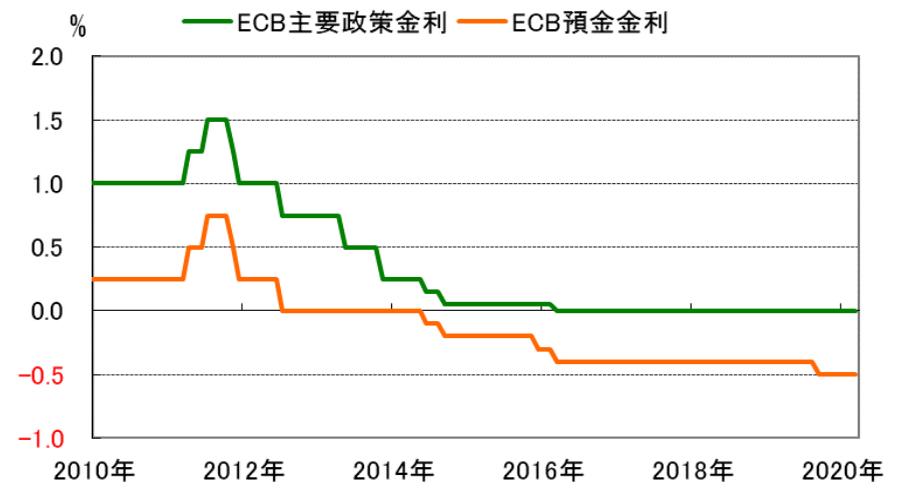
◎注意事項をよくお読み下さい



〇 概況

- ◆ ECBは市中銀行への長期資金供給の枠組みを拡充
- ◆ 一方で政策金利や資産購入枠は据え置き。一部で期待のあった資産購入の拡充は見送られたが、ユーロ圏経済が脆弱であることを踏まえると、今後拡大に踏み切る可能性は高いであろう
- ✓ 4月30日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、長期資金供給の強化を発表した。主な変更点は2つ。
 - ① **長期リファイナンスオペ（TLTRO3）について、適用金利を最大▲1.00%に引き下げ**
 - ② **新たにパンデミック緊急資金供給オペ（PELTRO）を導入**
- ✓ 一方で **中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置き。**
- ✓ **先月18日の会合で導入した7500億ユーロの資産購入プログラム（PEPP）についても据え置き。**
- ✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）についても、**「インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで」を据え置き。**満期を迎えた債券の償還金に関して、長期間の再投資を継続。
- ✓ ラガルド総裁は会見で、ユーロ圏経済は「前例のない」経済の収縮となっており、今年のユーロ圏GDPは、ECBスタッフの試算では5～12%のマイナス成長になるとした。また必要に応じて量的緩和(QE)を拡大する用意はあるとしたが、資産買い入れプログラム(APP)の資産買い取り対象の拡充等については協議がなかったと発言した。
- ✓ 市場では資産購入プログラムの拡充への期待が高かったことから、発表後のマーケットの反応はユーロは上昇、リスク資産は下落となった。ユーロ圏経済が脆弱であることを踏まえれば今後拡大に踏み切る可能性は高いであろう。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2020年	2021年	2022年
実質GDP成長率	+0.8	+1.3	+1.4
12月時点の見通し	+1.1	+1.4	+1.4
HICP（消費者物価）	+1.1	+1.4	+1.6
12月時点の見通し	+1.1	+1.4	+1.6

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。